

野田市立保育所指定管理者候補者
選定委員会（フォローアップ）会議録概要

開催日時 平成31年2月22日（金）午後1時から午後3時まで
開催場所 野田市役所7階 706会議室
出席委員 総務部長（副委員長）、企画財政部長、行政管理課長、管財課長
欠席委員 副市長（委員長）、児童家庭部長
事務局 保育課、行政管理課

1 開会

＜副委員長から開会の言葉＞

2 議事

平成30年度（4月～12月）野田市立保育所業務報告書及び平成31年度野田市立保育所業務計画書の審査について

＜事務局から平成30年度（4月～12月）野田市立保育所業務報告書及び平成31年度野田市立保育所業務計画書について指定管理者ごとに説明＞

＜審議の概要＞

（1）南部保育所について（業務報告書及び業務計画書）

○ 業務報告書29ページの収支状況報告について、人件費等の約766万円が執行残となる理由を教えてください。また、その他の経費の決算見込額が645万円超過していることと、その支払時期の9割が1月以降になっていることの理由を教えてください。

→ 人件費については、配置予定職員の経験年数や昇給等を29年度決算に比べて30年度予算を多く見込んでいたものであり、その他にも、中途退職者の代替としてフリーの保育士を配置したことから、人件費が抑えられ執行残が生じている。また、その他の経費については、本部経費の各園負担分が予算未計上であったことから予算を超過し、主な経費である本部経費の人件費については、各園負担分の金額が年度末に決定することから、支払時期が3月となる。

○ 業務計画書20ページの収支計画について、支出のその他の内容は何か。また、10月からの消費税率改定分を見込んでいるのか。

→ その他の内容は、消耗品費、保育材料費、研修費、旅費、保険料、印刷製本費、通信運搬費、会議費、手数料、駐車場費用、本部経費負担等である。また、10月からの消費税率改定分も見込んでいる。

（2）北部保育所について（業務報告書及び業務計画書）

○ 管理運営状況調書中、総合所見の「ベテランの男性保育士が所長を務めていて、園の運営にも安定感が感じられる」との記述があるが、逆説的に捉えられる心配はないか。

→ 従来、保育所では女性保育士が中心となっていて保育が行われてきたが、現在は男性保育士が配置されることで バランスの良い保育ができるものとされている。また、男性保育士の配置により、防犯上の観点からも犯罪の抑止に繋がっているところである。総合所見の「ベテランの男性保育士が所長を務めていて、園の運営にも安定感が感じられる。」という所見については、ベテランで経験豊かで男性保育士という利点もあって安定感と表現させていただいたものであり、男性をもって安定感があるとしたものではないが、誤解の恐れがあることから男性という表現を削除したい。

○ 業務報告書 26 ページの収支状況報告について、人件費等約 1,576 万円とその他 1,170 万円が執行残となる理由を教えてください。

→ 人件費等については、配置予定職員の経験年数や昇給等を見込み 29 年度決算に比べて 30 年度予算を多く見込んでいたが、予定の職員数を配置できなかったことから、執行残が生じている。また、その他の経費については、主な経費が本部経費の人件費であり各園の負担割合が年度末に決定することから、12 月末までの決算見込額では執行残が生じるとしているが、29 年度の決算額と同様に予算額と差異がない決算見込みであることから、3 月末の決算では執行残は生じない見込みである。

○ 業務計画書 19 ページの収支計画について、その他の 31 年度の予算額が 30 年度の決算見込額を 600 万円上回る理由を教えてください。

→ 入所児童数の増加を見込み、消耗品や保育材料費等の増額分を反映させているものである。

(3) 木間ヶ瀬保育所について（業務報告書）

○ 管理運営状況調書の（適正な衛生管理、健康管理等への取組がされているかの③）給食（おやつ）の提供への取組状況が自己評価 A であり、担当課の総合所見でも「特にクッキング保育にも力を入れており」との評価をしている中、担当課評価を B とした理由を教えてください。

→ 食育菜園での食育の実践、クッキング保育の実施、スイーツコレクションの開催等いくつかの取組については、食育の充実として一定の評価はできるものであるが、系列園でも同様の取組を実施しており、木間ヶ瀬保育所の独自の取組ではないものもある。給食提供の根幹である安心安全な給食の提供という部分では、従前と同様の取組状況であることから A 評価には至らないと評価した。

○ 業務報告書 19 ページの事故、要望又は苦情の対応について、該当がないとのことだが、9 か月を経過して全く無いということは想定しにくい。もし、軽微な要望、苦情等は記載するほどではないと考えているとしたら問題であると思うが如何か。

→ 保育課としては、要望や苦情等を全て報告するよう指導しており、「軽微なものでは記載するほどではない」と考えてはいない。

また、木間ヶ瀬保育所の運営協議会においても、保護者から要望や苦情はなく、保育課宛てにも現在までに要望や苦情は届いていない。

○ 業務報告書 29 ページの収支状況報告について、人件費等の約 905 万円とその他の 420 万円が執行残となる理由を教えてください。

→ 人件費については、配置予定職員の経験年数や昇給等を 29 年度決算に比べて 30 年度予算を多く見込んでいた。30 年度中に、育児休業や中途退職があったことから執行残が生じている。また、その他の経費については、複数の施設運営を行う中で保育用品等の一括購入により経費縮減を図り、本部経費の人材雇用等にかかる経費を総合的に管理することで一施設当たりの経費が縮減されることから執行残が生じる見込みである。

(4) 尾崎保育所について（業務報告書及び業務計画書）

○ 業務報告書 16 ページの収支状況報告について、支出で常勤職員人件費が当初予算より減少する見込みであるが、雇用状況を教えてください。

→ 予算積算時には、短時間保育士だけではなく常勤職員確保を計画し見積もりをしたところ、常勤職員の採用に至らなかったことから決算見込みは予算より減少する見込みであるが、4 月時点では、保育士の必要数を確保できており運営に支障はない。

○ 人員配置状況によると非常勤職員は退職した者が入社した者を大きく上回っているが、決算見込額が予算額を超過する理由はなぜか。

→ 非常勤職員には派遣職員の費用が含まれている。保育士や調理員の職種において非常勤職員の確保を計画していたが採用者がなく派遣職員としたことから、人件費の決算見込額が多くなるものである。

○ 業務計画書 11 ページの研修計画について、社外研修が計画されていないが、職員の質や技術は担保されるのか。

→ 業務計画書への記載漏れのため訂正する。職員研修については、業務報告書の研修報告に記載しているとおり、社外研修にも参加し職員の質や技術を担保しており、31 年度についても 30 年度同様に自治体の実施する研修などに定期的に参加する計画である。

(5) 花輪保育所について（業務報告書）

- 業務報告書 11 ページの事故、要望又は苦情の対応状況の中で、延長料金が発生するのは納得いかない旨の記述があるが、延長料金の取扱いの結果について記載がないので教えてほしい。

→ 送迎車の混雑に伴い 18 時を過ぎてしまい延長保育料が発生したとの理由により「延長料金が発生するのは納得いかない」との御意見をいただいたが、一部の保護者のみ料金を徴収しないのは公平性に欠けるため、保護者へ説明し納得いただき通常どおり延長料金を徴収した。業務報告書については、結果を追記する。

- 業務報告書 18 ページの収支状況報告について、人員配置状況をみると、非常勤は 10 月に 2 人入社し、うち 1 人は 12 月に退社しているのに、非常勤職員の人件費決算見込みが予算を約 560 万円超過するのはなぜか。

→ 30 年 10 月に入社した非常勤職員 2 人増加分のほか、予算積算時に派遣職員の人件費を低く見積もっていたことから予算が超過したものである。

(6) 清水保育所について（業務報告書及び業務計画書）

- 業務報告書 2 ページの（施設の効用（設置目的）が最大限に発揮されるものであることの③）自己評価及び第三者評価の実施と活用状況について、「園内のマニュアルや保育の記録の取り方等についての見直しを行いました。」とあるが、具体的な見直し内容について教えてほしい。

→ 職員の自己評価について、より明確な目標を持って自己研鑽に取り組み、1 年間の成長の振り返りがしやすいフォームに見直した。

また、園独自のマニュアルである「ベーシック」については、作成してから時間が経過しており、現状とは異なる部分が生じているため、全面的に見直した。内容としては、職員の業務分担や保育体制、避難経路や掃除の仕方、電話や見学者への対応など多岐にわたっており、自園のルールブックとして活用している。その他、保育課程の見直しを行い、新しい保育指針に沿った内容にし、全クラスの日誌に午睡のチェック欄を設けるなど見直しを実施した。

- 業務報告書 18 ページの収支状況報告について、収入状況のうち指定管理料の決算が予算を約 163 万円超過する見込みとなっており、この大きな理由は、支出のその他の予算超過と思われるが、具体的な内容について教えてほしい。

→ 昨今の保育士不足のため、保育士募集時の広告料等の保育士採用に係る費用が増加している。

- 業務計画書 12 ページの収支計画について、表に記載の数字からみて単位は千円と想定するが、単位を明記すべきである。また、支出の「その他」の予算が増加しているが、具体的な内容について教えてほしい。

→ 支出の「その他」については、収支状況報告と同様であり保育士募集時の広告料等の保育士等の採用経費である。収支計画の表については、御指摘のとおり単位を明記する。

○ 31年度に新たに実施する又は大幅な見直しを予定している事務、事業、行事等あれば教えてほしい。

→ 30年度から在園児の家庭への園庭開放を始めたが、実施回数が少なかったことから、実施回数の増加を考えている。30年度は3回だったが、31年度は7月を除く奇数月で5回実施する予定である。併せて周知方法についても検討していくことを考えている。また、以前から保護者からの要望があった土曜日の完全給食については、31年度から実施する予定である。

(7) 東部保育所について（業務報告書及び業務計画書）

○ 管理運営状況調書について、苦情解決の状況の担当課評価がCとなっており、総合所見に「保護者からの苦情等に対する対応が適切でなく、事故に対する検証が不十分なケースが見受けられた」とあるが、具体的な事例を教えてほしい。

→ 8月に実施した天井扇撤去工事の際に、送迎時間帯に駐車場へ工事車両が駐車していたことに対して保護者から苦情を受けたにもかかわらず、1月の床改修工事においても同様の苦情を受けたものである。

1月の工事では、工事業者とは送迎が落ち着く午前9時過ぎに工事を始めるように事前打合せをしていたが、業者が8時20分頃に到着し工事を始めたいとの申し出があり了承したため、保護者送迎用駐車場に工事車両を駐車することとなり、同様の苦情を受けた。

○ 業務報告書14ページ収支状況報告の支出について、人件費の説明欄に「退職者の補充ができなかったため」と記載があるが、職員の採用状況と業務への影響について教えてほしい。

→ 29年度末に退職した社員1人と非常勤職員の補充を予定し予算を計上した。30年12月現在で、保育士は非常勤職員3人、派遣職員1人と調理職員は非常勤職員2人を採用したが、社員としての採用までには至っていないことから、予算に対し決算見込みが少なくなった。なお、社員採用には至らなかったが、現在の職員配置では保育士の配置基準を遵守していることから、業務への影響はなく運営できている。

○ 業務報告書14ページ収支状況報告の支出について、減価償却費の対象は何か。また、引当金を計上しているということか。

→ 減価償却費については、ブラインド設置工事や便所等の衛生設備工事が対象である。また、引当金については計上していない。

- 業務計画書 11 ページの人件費が大幅に減額になっている理由は何か。
- 記載誤りのため、人件費を 8,500 万円に、法定福利費を 800 万円に、小計を 9,300 万円に、支出合計を 1 億 3,050 万円に修正する。

<審議の結果>

平成 30 年度(4 月～12 月)野田市立保育所業務報告書及び平成 31 年度野田市立保育所業務計画書について、北部保育所、尾崎保育所、花輪保育所、清水保育所及び東部保育所における指摘事項等の修正も含め承認

3 閉会